

## 28年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 11月1日～ 28年11月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は12社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 15.0	△ 15.0	△ 30.0
	マツ	△ 36.4	△ 45.5	△ 45.5
	広葉樹	△ 20.8	△ 29.2	△ 25.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 27.8	△ 5.6	△ 16.7
	マツ	△ 25.0	△ 30.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 9.1	△ 9.1	△ 13.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 30.0	△ 35.0
	マツ	△ 40.9	△ 50.0	△ 50.0
	広葉樹	△ 31.8	△ 40.9	△ 31.8

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は3ヵ月連続して減少。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
スギ・ヒノキ	5.6	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	4.5	4.5	4.5

・チップ用国産原木の購入価格は、スギ・ヒノキはやや強保合、マツ類は3ヵ月連続して横ばい。広葉樹はやや強含み。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

- ・カラマツの仕入れが減少(北海道)。
- ・針葉樹は森林再生事業に加え、システム販売材の入荷により、仕入は増加、広葉樹は季節的要因(スギ伐採)等で入荷減少(東北)。
- ・12月、1月、2月は正月及び降雪のため入荷が減少(中部)。
- ・入荷先の国有林の伐採が終了し、原木入荷は減る見込み。製紙会社は増集荷で動いている(中部)。
- ・スギ、ヒノキ、マツは変動なし、広葉樹は買材が80%のため荷動きが悪く、消費、在庫が減少(中国)。
- ・当月、翌月の仕入れは、時期も良くやや増加の見通し、翌々月は積雪の心配もありやや減少。当月、翌月の消費は横ばい、その後は仕入れ減で消費もやや減少。在庫は当月、翌月は横ばい、翌々月は減少(四国)。
- ・9月、10月の人工林伐採で用材が原木市に出された後、チップ材の搬出も増えてくる。雑木は農繁期が終わり、兼業の伐採業者からの持ち込みが増えてくる。11月は製紙工場、木質バイオマス発電所とも年次点検月で稼働日が少なくなり、チップ納入が減り、消費も減る。針葉樹は入荷が増えるが、減産のため在庫は積み増す。広葉樹は底払いで在庫に動なし(九州)。
- ・広葉樹が入らない。仕入れに応じた生産(九州)。

## (原木価格)

- ・針葉樹は燃料チップへの需要もあり、値上がり気味。広葉樹は入荷量の不足で多少の値上げが見込まれる(東北)。
- ・価格は安定(中部)。
- ・変動なし(中国)。
- ・変動なし(四国)。
- ・広葉樹は、原木少なく、少し経費がかかっても集荷する。針葉樹は変動なし(九州)。

## 28年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
生産 動向	スギ・ヒノキ	△ 22.2	△ 5.6	△ 22.2
	マツ類	△ 25.0	△ 30.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 10.0	△ 15.0	△ 20.0
出荷 動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 5.6	△ 22.2
	マツ類	△ 22.7	△ 22.7	△ 27.3
	広葉樹	△ 8.3	△ 12.5	△ 12.5
在庫 動向	スギ・ヒノキ	△ 43.8	△ 50.0	△ 56.3
	マツ類	△ 55.6	△ 61.1	△ 61.1
	広葉樹	△ 44.4	△ 44.4	△ 44.4

・木材チップの生産、出荷及び在庫は3ヵ月連続して減少。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	28/11月	12月	29/1月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・特に広葉樹の入荷減のため出荷量を調整、マツの出荷量を増やす(東北)。
- ・12月、1月、2月は正月及び降雪のためチップ生産が減少(中部)。
- ・入荷が減少していくため生産も材の入荷に合わせたものとなる。製紙会社は増集荷に動いているが、原木の入荷が減少のためチップ出荷も減少の見込み(中部)。
- ・スギ、ヒノキ、マツの生産は変動なし、広葉樹は買材が80%のため荷動きが悪く、出荷、在庫が減少(中国)。
- ・生産、出荷は、当月、翌月はやや増、翌々月は生産、出荷もやや減少。在庫は横ばいが翌々月はやや減少(四国)。
- ・11月は製紙、発電とも点検で、減産、出荷も減少(九州)。
- ・入荷に応じた生産。広葉樹は翌月よりやや出荷増(九州)。

## (木材チップ価格)

- ・特に動きなし(東北)。
- ・価格は安定(中部)。
- ・変動なし(中国)。
- ・変動なし(四国)。
- ・広葉樹は横ばい(九州)。